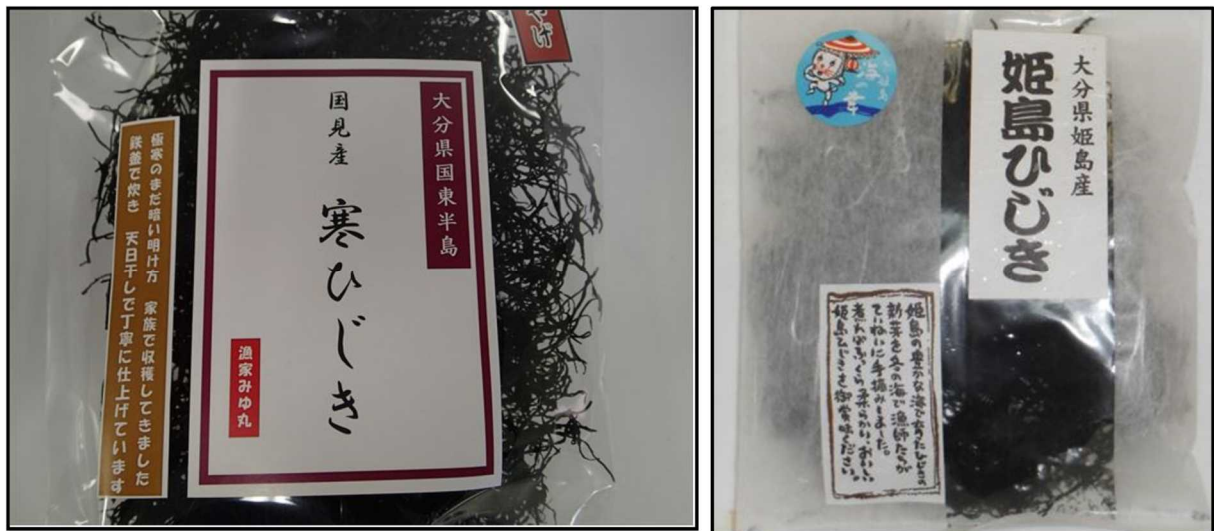


IV. ヒジキの資源保護と有効利用

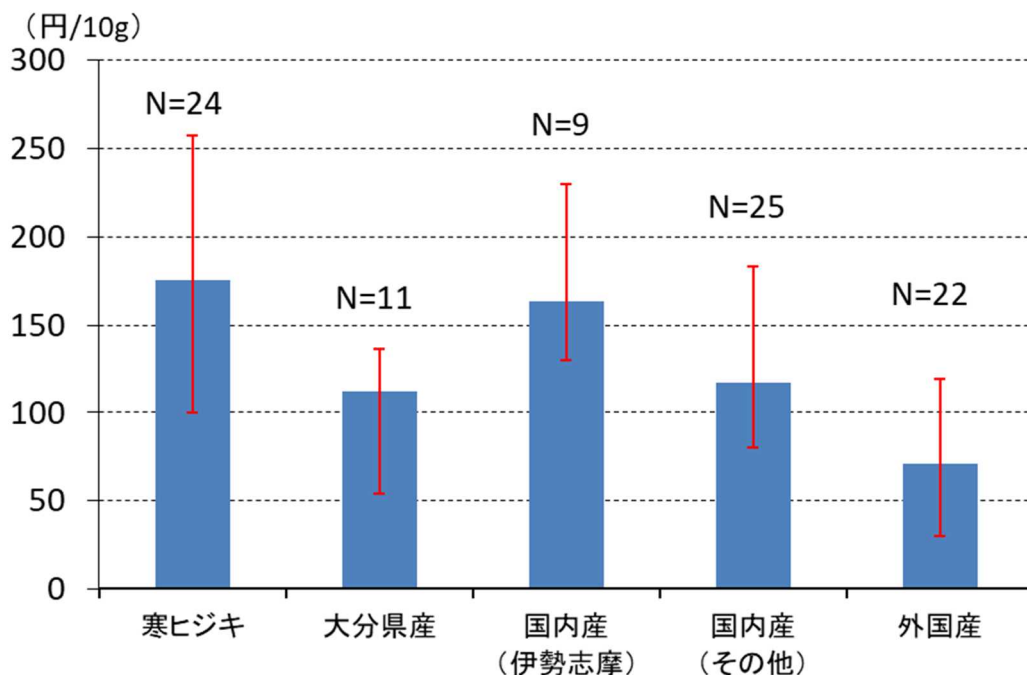
ヒジキ漁は、主枝の長さがまだ短く柔らかい12月から1月頃の厳冬の夜間に漁獲される「寒ヒジキ漁」と主枝が良く伸びた3月から5月頃の春季に漁獲される「春ヒジキ漁」があります。

「寒ヒジキ漁」によって漁獲されたヒジキ原藻に一手間（「茹で」・「乾燥」・「袋詰め」）をかけた寒ヒジキ（図IV-1）は、シャキシャキした歯ごたえで美味しく、道の駅などで高価格（約180円/10g）で販売されています（図IV-2）。

ヒジキ資源の保護と有効利用のために、「春ヒジキ漁」や「寒ヒジキ漁」を行う際の注意点を以下に記述します。

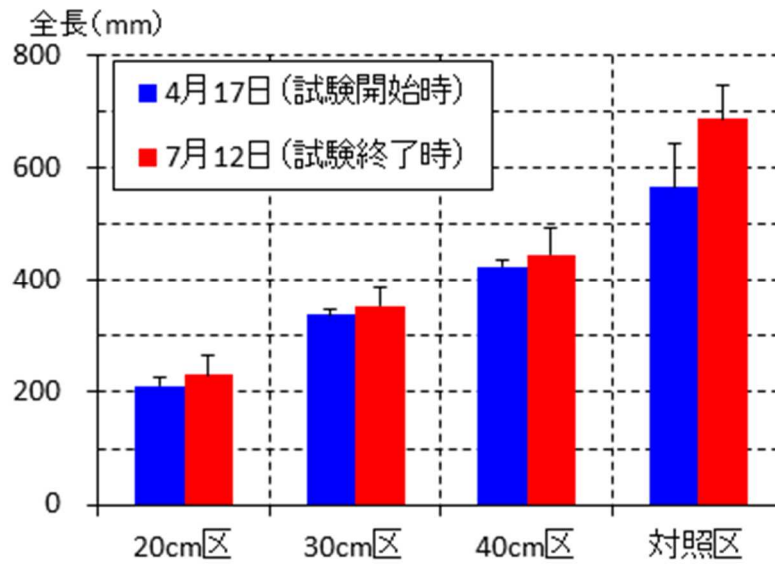


図IV-1 県内の道の駅などで販売されている寒ヒジキ

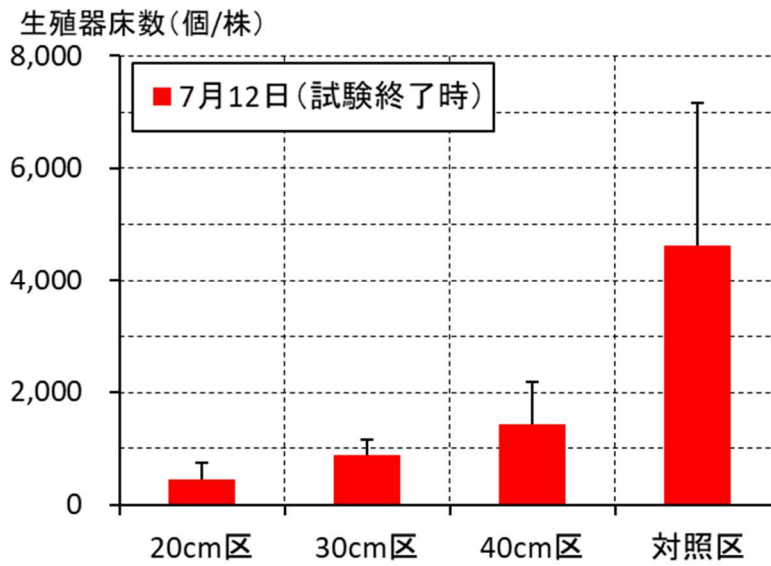


図IV-2 大分県内で市販流通しているヒジキの平均小売価格（平成28年3月）

* グラフ中のバーは、最高価格と最低価格を示す。



図IV-4 ヒジキ主枝切断後の伸長の比較
(平成 26 年, 国見)



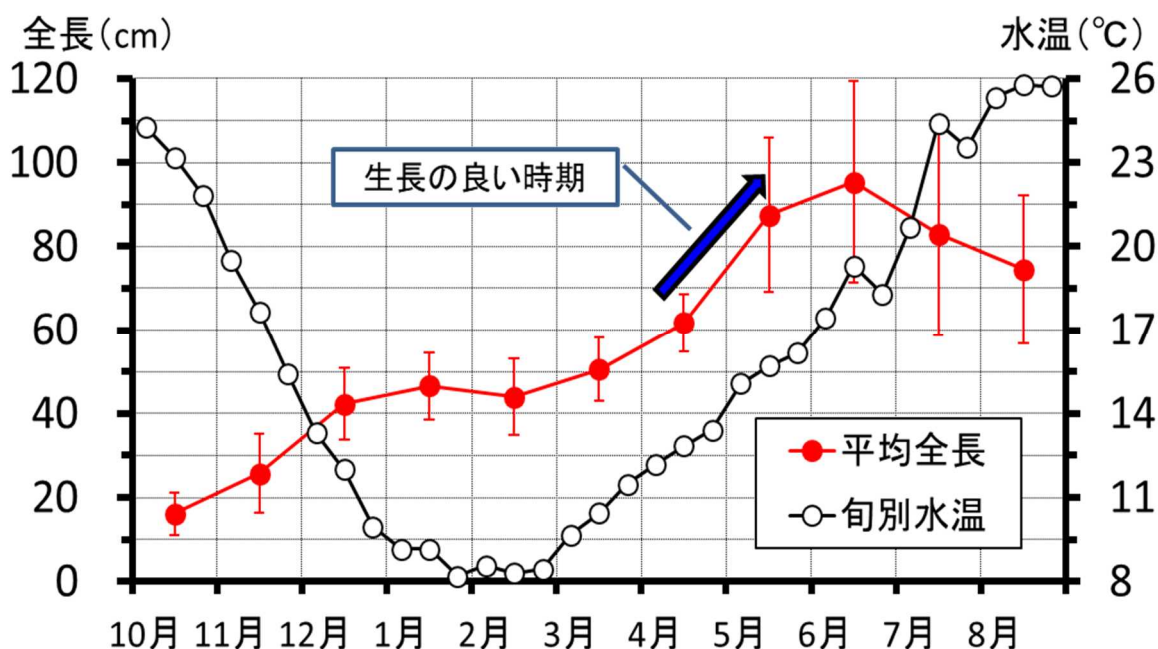
図IV-5 ヒジキ主枝切断による生殖器床形成数の影響
(平成 26 年, 国見)

2. 資源の有効利用

限られた資源を無駄なく有効利用して、ヒジキ漁による漁家収入の安定に努めて下さい。

- ① 「春ヒジキ漁」に当たっては、ヒジキの伸び具合と付着生物の付着状況を見極めながら漁期を決定する。付着生物の少ない高品質のヒジキを漁獲するためには、付着生物の付着状況や生長をモニタリングして、状況に応じた漁期の決定を行うことが必要です。
- ② 「春ヒジキ漁」まで待つと付着生物で汚れ商品価値が低下したり、全く漁獲できなくなったりするヒジキを、付着生物がまだ少ない冬季の時期に刈り取り、寒ヒジキの原藻として有効利用する。ただし、「寒ヒジキ漁」を行った場所では、「春ヒジキ漁」の漁獲量が減少しますので、計画的に行う必要があります。

ヒジキ付着生物のシオミドロ（褐藻綱海藻）やキイロウミシバ（ヒドロ虫綱）などは、乾燥すると白くなり、甚だしい場合は商品価値の低下を招く³⁾と言われており、付着生物は、生長の良くなる春季に多くなる傾向があります（図IV-6、表IV-1）。付着生物の少ない商品価値の高いヒジキを出来るだけ多く収穫するために、その収穫時期の見極めが重要となってきます。



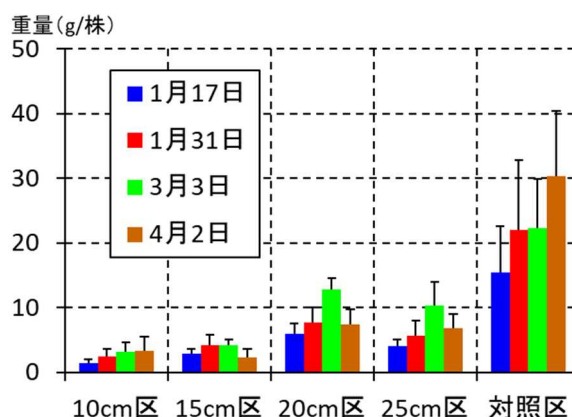
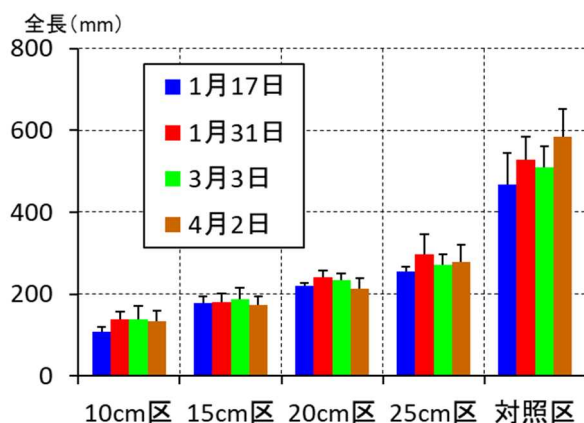
図IV-6 国東市国見におけるヒジキの生長

表IV-1 国東市国見におけるヒジキ付着生物の付着率の季節変化

付着生物	分類	H24年			H25年					
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
クロガシラ類	植物(褐藻綱)	+	-	++	+	+++	+++	+++	+++	+++
シオミドロ類	植物(褐藻綱)	-	-	-	-	+	+	+	-	++
キイロウミシバ	腔腸動物(ヒドロ虫綱)	-	-	-	-	-	-	-	++	++
カンザシゴカイ類	環形動物(多毛綱)	-	-	-	-	-	-	-	+++	+++

—:0%、+:30%以下、++:60%以下、+++100%以下

*表IV-1 中の付着率は、観察を行った10本の主枝のうち、付着生物が観察された主枝の数が0本、1~3本、4~6本、7~10本の場合をそれぞれ—、+、++、+++として表しています。



図IV-7 切り残し長さを変えて主枝を切断したヒジキ1株中の最長主枝の平均全長の推移

図IV-8 切り残し長さを変えて主枝を切断したヒジキ1株当たりの平均重量の推移

また、「寒ヒジキ漁」を行った後の「春ヒジキ漁」への影響を調べるために、平成25年12月3日に国見保護水面において、主枝を繊維状根から10、15、20、25cm切り残して切断した試験区と主枝を切断しない対照区を設け、主枝の長さや重量を定期的に測定しました。その結果、「春ヒジキ漁」の時期に当たる4月におけるヒジキ1株中の最長主枝の平均全長は、対照区に比べて試験区の方が短く（図IV-7）、「寒ヒジキ漁」で刈り取ったヒジキは、ほとんど伸長しない結果となっています。そのため1株当たりの平均重量も対照区に比べて試験区の方が軽く（図IV-8）、「寒ヒジキ漁」を行った場所では、漁獲後の主枝の伸長はほとんど認められず、「春ヒジキ漁」の漁獲量が減少することがわかります。

寒ヒジキは、高価格で販売可能な魅力的な商品です。「春ヒジキ漁」の時期まで待つと付着生物で汚れ、商品価値が低下するため利用していなかったヒジキを、まだ付着生物が少ない12月から1月の時期に、寒ヒジキの原藻として利用することは、資源の有効利用と漁家収入の増加にも繋がるものと思われます。

しかし、前述のとおり「寒ヒジキ漁」を行った場所では、「春ヒジキ漁」の漁獲量が減少しますので、「寒ヒジキ漁」の実施に際しては、「春ヒジキ漁」への影響を考慮して、計画的に解禁の時期や期間、場所等を決定する必要があります。